

### 鹿島灘はまぐりの発生状況

水産試験場では、鹿島灘はまぐりの稚貝発生状況を把握するため、毎年大洗から波崎にかけての砂浜海岸 54 定点で調査を行っています。今年は5月14～17日に、平成29年生まれ（殻長約1～10 mm）を対象とした調査を行いました。

#### <平成29年生まれの稚貝の分布 ～発生は局所的で全体としては低調～>

平成29年生まれの稚貝は6定点で確認されました（図1）。最も多かったサンビーチ南では1,012個体/m<sup>2</sup>となり、昭和52年の調査開始以降、定点毎の数としては2番目に多い結果でした（最多は平成26年生まれサンビーチ北の4,061個体/m<sup>2</sup>）。しかし、今回のように広域的に稚貝が確認されなかった年の資源は、その後漁獲される量が少ない場合が多く、平成29年生まれのはまぐりは今後漁獲される量は少ないと考えられます。

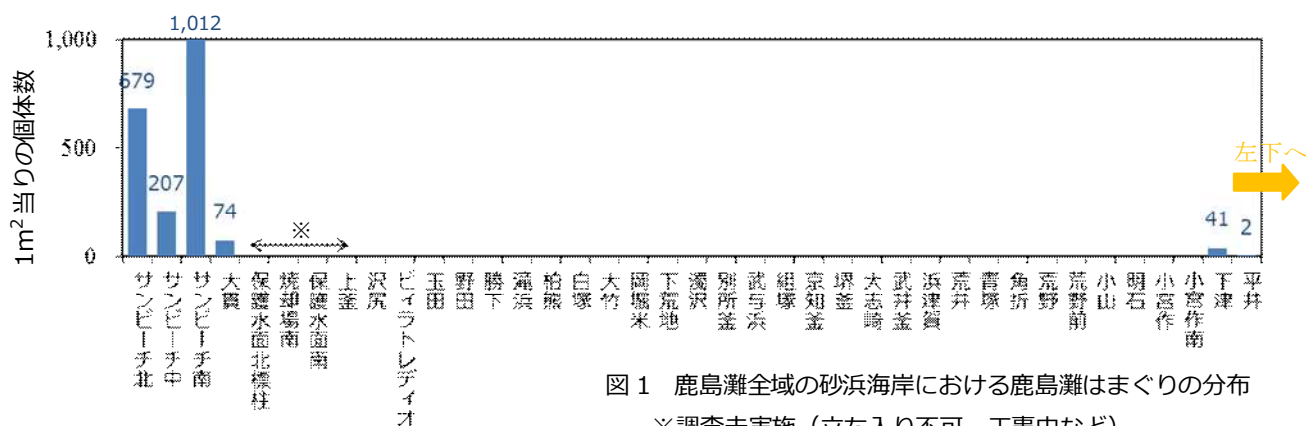


図1 鹿島灘全域の砂浜海岸における鹿島灘はまぐりの分布  
※調査未実施（立ち入り不可，工事中など）

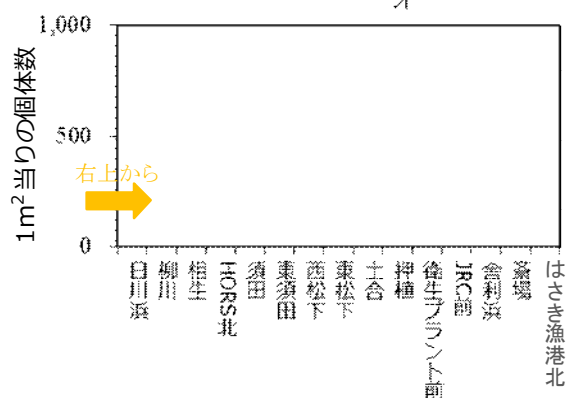


図2 採取された鹿島灘はまぐり稚貝（サンビーチ南）

#### <稚貝の発生動向と資源の管理・保護>

平成5年生まれ以降しばらくの間、稚貝は広域的に確認されませんでした。平成26年生まれの稚貝は久しぶりに広域的に確認されました。これらは現在、7cm前後に成長して漁獲されています。しかし、平成27年生まれ以降の稚貝はあまり確認されておらず、今後それらが漁獲される量は少ないと考えられるため、引き続きはまぐり資源の適切な管理と保護が重要となります。  
(定着性資源部 横山)

【次号予告】H30.9.11 発行の水産の窓は「9月の海況と今後の予測」を予定しています。